

2019年3月4日

東芝テック株式会社

〒141-8562 東京都品川区大崎 1-11-1

URL : <https://www.toshibatec.co.jp/>

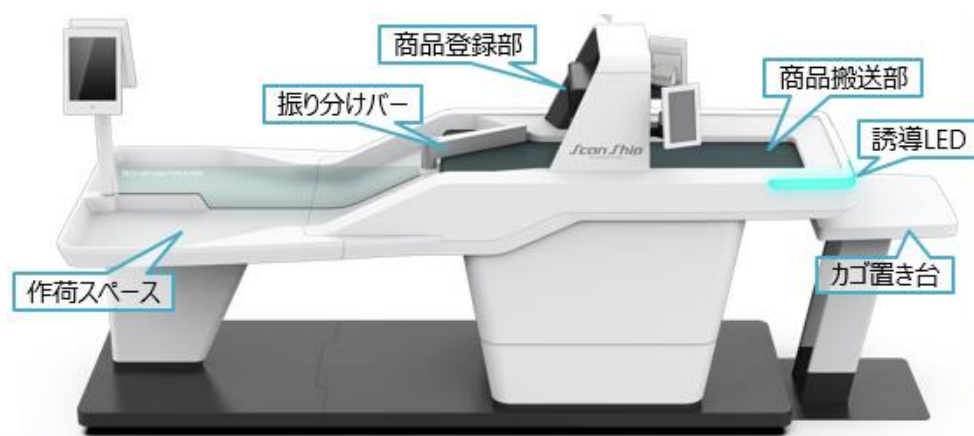
東芝テック RTJ2019 スマートフューチャーコーナー展示物のご紹介

スマートフューチャーコーナーでは「近未来の小売・飲食店」を体験できるコーナーです。
今回は以下4つのソリューションをご紹介します。

① スキャンシップ

セルフレジのあたらしいカタチを提案

量販店では人手不足への対応としてセルフレジの導入が再検討されつつありますが、消費者が操作するため商品登録に時間がかかり、設置面積あたりの効率が悪いといった課題がありました。今回ご紹介するスキャンシップでは商品をベルトコンベアへ置くだけで商品登録が完了します。消費者は商品のバーコードを探してからスキャナへかざす作業が不要になります。また従来タッチパネルで登録操作していた青果商品も同様にベルトコンベアへ置くだけで商品登録が完了します。さらに作荷スペースを2つに分けることで袋詰めと商品登録が1つの機械で同時にでき、システム全体のスループット向上と省スペース化を実現しました。



② ハイブリッド POS2

フレキシブルに活用する POS

レジ運営に少人化と省スペース化が求められる中、状況に応じた柔軟なシステムが求められています。

ハイブリッド POS2 は対面レジとセルフレジが切替可能となるハイブリッド筐体により、混雑時はチェッカー操作による対面レジに、チェッカーが不足する時間帯にはセルフレジに切り替えることでチェックアウトスペースの無駄を無くし店舗運用の効率化に寄与します。

また今後普及が見込まれている RFID 付き商品が混在していくことを考慮し、バーコードと RFID 商品の読取機器を一体化、登録者はバーコード、RFID 共にスキャナ窓面へ商品をかざすことで商品登録が可能となり登録操作の負担の軽減に寄与します。

■ 対面POS運用時：チェッカー操作



■ セルフレジ運用時：消費者操作



③ 3D スキャン&バーチャルフィッティング

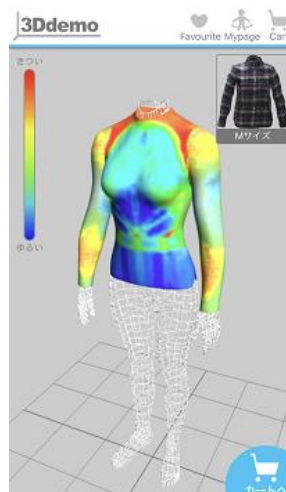
いつでもどこでもリアルな買物体験を提供

今後も続く EC 市場の伸長とともに、デジタルネイティブ世代が増えていくにつれ、どこでも、すぐに、の買物ニーズはますます高まっていくと予想されており、利便性の追求が続きます。

当展示では現状 EC が抱える課題のうち、消費者が感じる「試着できないからフィット感が分からない」という課題、小売側の返品コストの課題を解決し、ビジネス拡大をサポートします。

当展示では人体と商品の 3D スキャンデータを突合することで可視化されたプレッシャーマップによる正確なサイズ感の把握ができるバーチャル試着を提供します。消費者には EC でのリアルな試着・買物体験の提供、小売業の方には返品率低減が可能となります。

商品の 3D スキャン装置ではトルソーなどに服を着せた後は自動で撮影と採寸が完了、オペレータ 1 人で処理できる数は従来と比べ約 4 倍となり、「ささげ」と呼ばれる EC 商品のデータ登録時に必要な撮影・採寸・原稿作業の負担を軽減します。



④ テーブルコンシェルジュ

人手不足でも手厚い接客サービスでおもてなし

年々と人材確保が難しくなる中、飲食店では注文や決済などのセルフサービス化が進んできていますが、その結果お客様への商品・サービスの提案はプル型になってしまっています。

テーブルコンシェルジュではセンシングデバイスから取得する性別、客層、お皿やグラスの空き状況のデータと POS データを掛け合わせることで精度の高いレコメンドを音声によるプッシュ型の提案をタイムリーに行います。

お客様はタブレット等の操作をせずにおすすめ商品を知ることができ、そのまま音声で注文もできます。飲食店においてはスマートにおすすめ商品の提案ができます。

音声対話技術では独自の統計対話技術を用い、従来の一問一答形式の対話技術では難しい、言い回しの意図の理解や対話状況の判断ができるため連続的な対話が可能となり、お客様の求めている情報へスムーズに辿り着くことができます。



本件に関する報道関係者のお問い合わせ先

東芝テック株式会社 リテール・ソリューション事業本部
商品・マーケティング統括部 専門店ソリューション商品部
TEL 03 (6830) 9293